

◆ 琵琶湖漕艇場再整備基本計画の検討状況について ◆

県民生活・土木交通常任委員会 資料1
平成30年(2018年)2月9日(金)
県民生活部 スポーツ局

【はじめに】

琵琶湖漕艇場は、県民の心身の健全な発達とスポーツの普及振興を図るため、昭和46年に整備され、開設以来、本県のボート競技およびカヌー競技活動の中心施設として重要な役割を果たしている。併せて、関西を代表する湖上スポーツの拠点施設として、毎年多くの大会が開催され、全国はもとより海外からも競技者が集まる。

過去には、昭和56年の滋賀国体、平成27年の和歌山国体時にボート競技会場として活用された。また、東京オリンピック・パラリンピックを契機として、海外のボート関係者をはじめ海外との交流が活発化されている。

一方で、施設開設後46年が経過したことにより、管理棟や艇庫をはじめとする施設の老朽化が顕著であることや、コース利用における安全対策などの課題が指摘されていることから、速やかな再整備の実施が求められている。

このため、利用者の利便性・安全性の向上や競技会場としての機能強化を図るべく、漕艇場の再整備に向けて、基本計画を策定する。

【取り巻く状況】

1. 湖上スポーツの振興

湖上スポーツの振興について、「滋賀県スポーツ推進条例」および「滋賀県スポーツ推進計画」において、琵琶湖をはじめ地域の特性を生かしたスポーツの推進が位置づけられている。

併せて、琵琶湖の再生に向けて、誰もが楽しめる湖上スポーツの普及や魅力の発信について議論されている。

また、施設の所在地である大津市においても「大津市総合計画2017」および「大津市第2期観光交流基本計画」の中で、湖上スポーツを含むスポーツ観光の推進が盛り込まれている。

2. 大規模スポーツイベント

今後2021年にはワールドマスターズゲームズ2021 関西大会や2024年には第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会等の大規模なスポーツイベントの競技会場として活用することとしている。

(参考)

滋賀県スポーツ推進条例抜粋(平成27年12月14日施行)

(基本理念)

第2条(7) 琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境、観光資源等を活用し、地域の特性を生かしたスポーツを重点的に推進すること。

【施設の現状】

■ 施設概要

設置	昭和46年(築46年)	管理棟の一部を昭和52年増設
場所	大津市玉野浦6-1	
施設	管理棟(鉄筋コンクリート造)	2階建 746.37㎡
	艇庫(鉄骨造)	1階建 403.2㎡(87艇)
コース	日本ボート協会B級公認コース常設:1,000m×6レーン カヌー競技使用時:1,000m×9レーン	

■ 利用状況

1. 利用者数の推移

	H25年	H26年	H27年	H28年	年平均
年間利用可能日数	345日	344日	343日	318日	338日
年間利用人数	30,322人	35,100人	33,473人	32,878人	32,943人
1日当利用人数	88人/日	102人/日	98人/日	103人/日	98人/日
利用可能時間帯	8:30~17:00 (宿泊室、会議室除く)		定休日等	毎週月曜日 *月曜日が祝日の場合は、翌火曜日 *学校長期休業期間(春休み、夏休み、冬休み)については、月曜日も開館 年末年始(12/29~1/3)	
宿泊室稼働日数	年間47日程度		宿泊室利用者数	957人(平成30年1月末現在)	

2. 大会実施状況

(1) 年間大会開催数

- ・36大会(平成29年度)

(2) 主な大会(平成29年度)

- ・朝日レガッタ(5月4日~7日 参加者数1,360人)
- ・関西学生新人レガッタ(6月3日~4日 参加者数2,555人)
- ・近畿高校カヌー選手権大会(6月10日~11日 参加者数179人)
- ・びわ湖市民レガッタ(9月9日~10日 参加者数510人)
- ・中日旗争奪びわこレガッタ(9月23日~24日 参加者数629人)

3. 講座・教室等開催状況

- ・ジュニアボート・カヌー教室(開催回数6回 延べ参加者数140人)
- ・レディースボート教室(開催回数5回 延べ参加者数43名)
- ・ボート・カヌー体験教室(開催回数9回 延べ参加者数60人)
- ・BIWAKOアカデミー事業(開催回数177回 延べ参加者数955人)

現状写真



【 課 題 】

■ 建築施設

- ・コンクリートの劣化や鉄部の腐食の進行など、施設の老朽化が著しい



1. 艇庫

- ・艇の収納・整備スペースが不足している。
(一部の艇については、別途競技団体の艇庫に保管中。)



2. 管理棟

- ・段差が多く通路が狭い上、エレベーターが未設置、さらに浴室が男女兼用となっている等、障害者をはじめ施設利用に支障を来している。



- ・屋内にトレーニングスペースが確保されていない。
(駐車場に機器を設置してトレーニングをしている。)



■ 漕艇コース

- ・ゴール後の艇と艇庫から出艇した艇が交錯し、衝突する危険性がある。
- ・強風時に発生する波や水草により、競技運営に支障が出ている。



■ その他

- ・艇の積み下ろしや駐車スペースが不足している。

【 目指す姿 】

湖上スポーツのメッカとして、より多くの方に利用され末永く愛される漕艇場

【 再整備の方向性 】

■ 再整備の基本方針

- ① 狭小な敷地を最大限に活用した、コンパクトな施設とする。
- ② 必要な機能を整理・強化した上で、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの施設とする。
- ③ 琵琶湖岸の景観に調和し、都市公園と一体となった施設とする。

■ 建築施設

施設概要 構造 鉄骨造2階建て(一部3階建て) 面積 1,300㎡程度

- ・艇庫・管理棟の一体型とする。
- ・艇庫を拡張する。(403, 2㎡ → 600㎡程度)
- ・トレーニング室を新設する。
- ・エレベーターや多目的トイレの設置等、機能の充実を図る。
- ・屋上に観戦等利用者の憩いの場を設置する。
- ・宿泊機能については、稼働日数等を考慮し、整備しない。

■ 漕艇コース

- ・ゴール付近における艇の衝突を回避するため、コース全体を北へ移設することとし、新たなコース標示や審判台(移動式)を整備する。
- ・波の影響を低減するため、消波対策を行う。
- ・水草については、毎年状況が異なることから必要に応じて刈り取り等の対策を行う。

■ その他

- ・建屋の建て替えに伴い、積み下ろし場および駐車スペースを一部拡張する。
(なお、大会時の駐車スペースの確保については、近隣施設等の協力を得て対応していく。)

※駐車スペース

現状 約400㎡ 拡張後 約1,000㎡

■ スケジュール

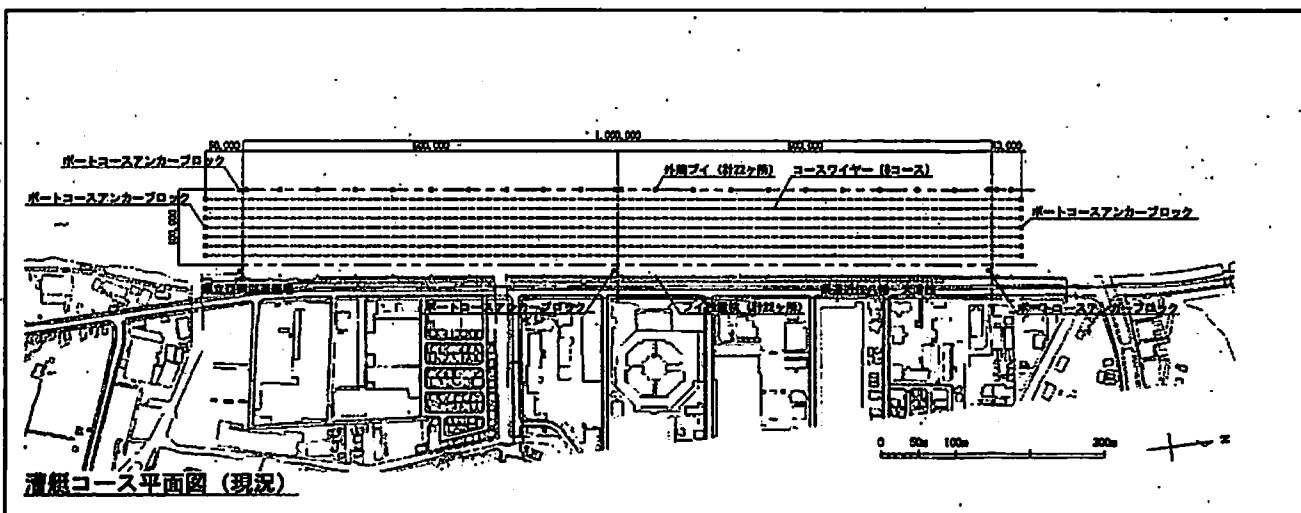
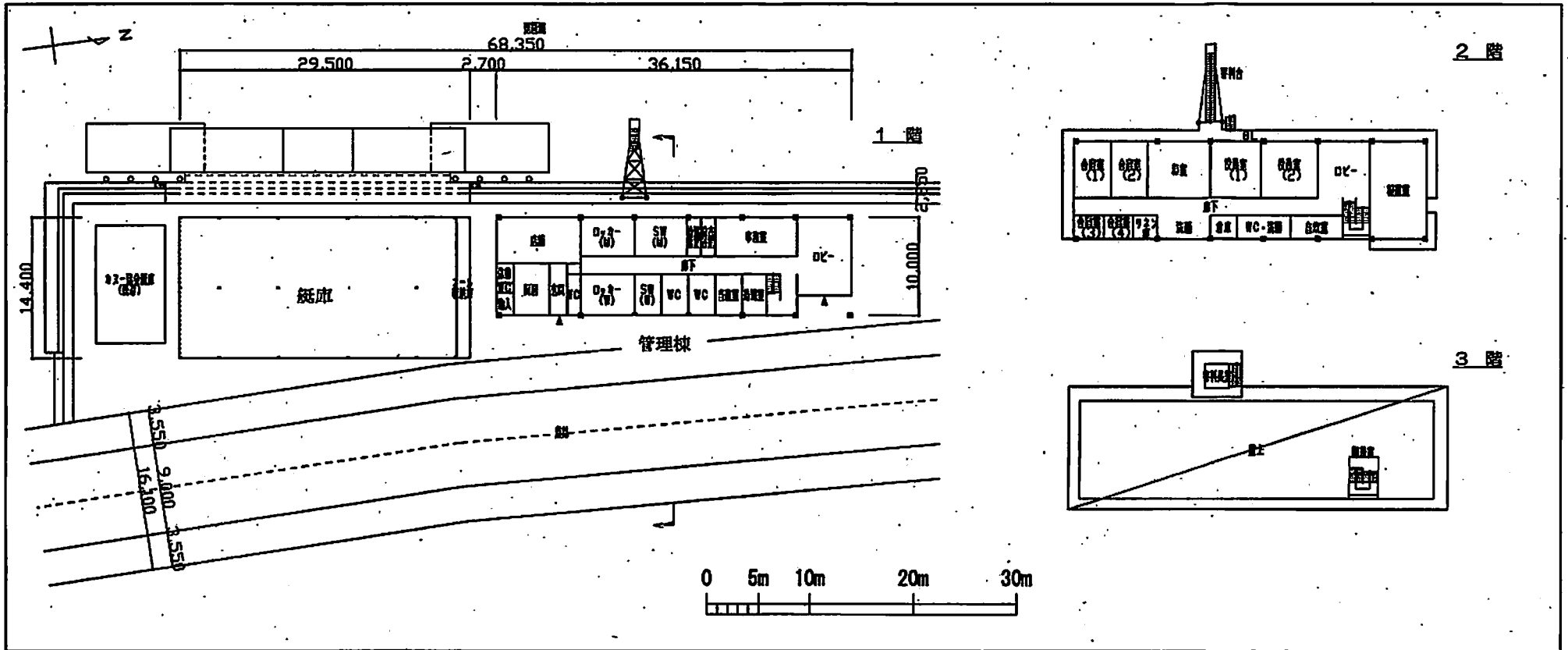
	2018年度	2019年度	2020年度
基本設計・実施設計	→		
管理棟・艇庫改築工事		→	→
コース改修工事		→	→

*コース改修工事はオフシーズンとなる冬期を中心に行う。

■ 概算事業費

約10億円

現状施設平面図



再整備計画平面図

